

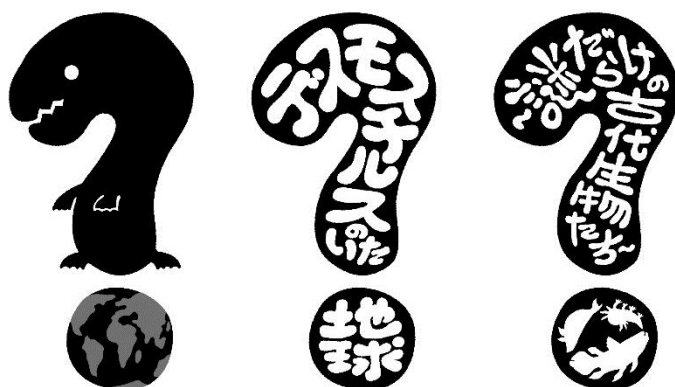


平成 28 年 6 月 17 日
株式会社海遊館 広報チーム
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
<http://www.kaiyukan.com/>
(担当：村上、西村、田中)

大型企画展 7月15日から開催！

びっくりするほど“謎”だらけ！！ 企画展「デスモスチルスのいた地球 ～謎だらけの古代生物たち～」

大阪市港区の海遊館は、平成 28 年 7 月 15 日（金）から平成 29 年春まで、企画展「デスモスチルスのいた地球 ～謎だらけの古代生物たち～」を海遊館エントランスビル 4 階にて開催します。本企画展のテーマは、「生き物たちの“謎だらけ”の進化」。デジタルアトラクションや生きた化石と呼ばれる生き物の展示で、“謎だらけ”の進化の不思議と面白さを体感できる企画展です。



企画展のタイトルにもなっている「デスモスチルス」は、日本で多数化石が確認され、100 年以上研究されているにも関わらず、未だにどんな姿で、どんな場所に住み、何を食べ、どうやって泳ぎ歩いていたか判明していない、謎の海の生き物です。本企画展では、「デスモスチルス」の“謎”に迫ると共に、海遊館でも人気のイルカやアシカの祖先たちの“謎”、ペンギンと似ている絶滅生物「ペンギンモドキ」の“謎”などをご紹介します。

また、生きた化石を代表するシーラカンス（日本で最初の実物標本）も展示します。この非常に貴重な標本は 1967 年にフランスから送られ、日本におけるシーラカンス研究の礎となりました。

海遊館では、この企画展をきっかけに生き物の「進化」の不思議に興味をもっていただきたいと考えています。展示の詳細については、改めてお知らせいたします。

【参考資料】日本で最初のシーラカンス標本



このシーラカンスは、1966年12月にコモロ諸島で捕獲され、1967年にフランスから贈られました。標本作成当時の測定で、体長156cm、体重55kgとされています。

日本で最初の非常に貴重な標本は、当時、東京大学の末広博士、国立科学博物館の岡田館長らによって解剖研究が行われ、日本におけるシーラカンス研究の礎となりました。その後、1967年3月より、よみうりランド海水水族館（当時）で日本で初めて一般公開され大きなニュースになりました。2003年からは、下関市立しものせき水族館「海響館」で紹介され、2016年7月15日より海遊館で展示します。



シーラカンスのヒレは、根元が柄のようになっており、一般的な魚とは異なります。この柄の部分には骨があり、陸上で暮らす四足動物の前足と同じ起源と考えられており、「進化」の不思議を感じさせます。

日本で最初のシーラカンス標本については、企画展開催の直前に改めて詳細をお知らせいたします。